

令和6年度 会報 埼玉県連合教育研究会

令和6年10月4日
 埼玉県連合教育研究会
 責任者 浅見 正 史
 〒330-0804
 さいたま市大宮区堀の内町1-99
 さいたま市立大宮東中学校内
 印刷 関東図書株式会社



埼玉県連合教育研究会
会長 浅見 正 史

祝 埼玉連教 設立 60周年

本年度、埼玉県連合教育研究会は、設立60周年を迎えることができました。これも会員の皆様をはじめ、埼玉県・さいたま市・教育公務員弘済会等の皆様のご理解とご協力のお陰であり、心より感謝を申し上げます。

埼玉県連合教育研究会のあゆみを振り返りますと、その前身は、昭和28年、「埼玉県教育研究団体代表者連絡協議会」として発足し、各教科活動団体を主体に教科独自の研究を進めていました。昭和34年に文部省の全国的な指導を受け、全県下の教員を対象とした研究組織を作り、本県教育の振興を図るべく昭和35年3月10日に「埼玉県教育研究団体連絡協議会」へと名称を変更し会則案を作成し教科別の研究活動を続けてきました。昭和37年9月以降、文部省は、さらに、県教委に対し教育研究団体の結成及び育成について強力な指導を行い、昭和39年には、文部省・県教委の指導の下、「埼玉県連合教育研究会」と名称を変更し、1月18日（土）浦和市武蔵野荘にて、発足会が盛大に開催されました。国と県からは、会費に見合った補助金も最高で260万円もいただけるようになり、地域団体は48団体、教科等団体は13団体、計61団体、小中高等学校教職員約2万3千名の会員が先進的に研究を推進してまいりました。

その後の60年間、皆様のご協力で、本研究会は躍進を続け、地域教育研究団体55団体、教科等研究団体19団体、会員数約30,783名の埼玉県最大の教育研究団体となってまいりました。今後も下の活動方針等のもと、以下の課題解決に向け邁進してまいりますのでご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

- (1) 先生方の本研究会会員としての意識の高揚
- (2) 研究団体における働き方改革への積極的な推進（特に、事務局業務の負担軽減）
- (3) ホームページによる教科等研究団体と地域教育研究団体の連携強化、情報提供、事務処理の効率化

令和6年度 活動方針と重点・努力点

<活動方針>

- 1 未来を切り拓く教育の創造を目指して、着実な教育研究活動を継続し、埼玉県公立小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の教育の充実と発展に邁進する。
- 2 学習指導要領と埼玉県及びさいたま市等の教育行政施策を踏まえて、各教育研究団体の特性を生かし、真摯に教育研究活動を推進し、「教育立県・埼玉」の実現に邁進する。
- 3 国や世界の状況を適切にとらえ、持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる人財の育成を目指して、質の高い教育研究活動を推進し、その実現に邁進する。



ホームページ
QRコード

<重点・努力点>

- 1 確かな学力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた「デジタル」と「リアル」の最適な組み合わせによる教育研究活動を一層推進する。
 - 2 家族・家庭・地域の共助のもと、豊かな心と健やかな体を育成し、たくましく生きる力を育む教育研究活動を一層推進する。
 - 3 「令和の日本型学校教育」を担う、学び続ける教師の実現に向けた組織的・継続的な教育研究活動を一層推進する。
- <※.....部分は、新たに加筆した文言です。>

なお、本年度、全国大会・関東地区大会を開催します教科等研究団体は、全国大会（英語【11月15日(金)・16日(土)】）、関東地区大会（生活・総合的な学習の時間【10月25日(金)】）の2団体です。

是非、多くの会員の皆様のご参加をいただけますよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びに、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会並びに公営財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部の皆様には、ご指導、ご支援をいただき心より御礼申し上げ、あいさつといたします。

目次

・会長あいさつ、活動方針と重点・努力点……………	1	・教科等研究団体等の研究主題・研究内容……………	5
・令和6年度役員・評議員等名簿……………	2	・地域教育研究団体の取組……………	9
・組織・運営図……………	3	・事務局だより・研究論文入賞者研究論文の概要……………	13
・会費・負担金等の流れ……………	4	・令和7年度研究論文募集要領（案）……………	16

令和6年度 埼玉県連合教育研究会 役員・評議員等名簿

1. 本部役員等

Table with columns: 役職, 氏名, 所属, 役職, 氏名, 所属. Lists members of the main committee including the president, vice president, and various department heads.

2. 教科等研究団体

Table with columns: No, 研究団体名, 会長名, 所属. Lists 19 research groups across various subjects like Japanese language, writing, social studies, etc.

3. 地域教育研究団体

Large table with columns: 旧事務所, No, 研究団体名, 会長名, 所属. Lists regional research groups categorized by area: 南部, 北部, 入間, 比企, 秩父, 児玉, 大里, 北埼玉, 埼玉葛, and 入間地区連合教育研究会.

<令和6年度 学校数 1,211校 会員数 30,771名>

※1 越生班教育研究会【越生町・毛呂山町】
※2 小川班教育研究会【小川町・東秩父村】
※3 菅谷班教育研究会【滑川町・嵐山町】
※4 玉川班教育研究会【鳩山町・ときがわ町】
※5 秩父教育研究会【秩父市・横瀬町・小鹿野町・皆野町・長瀨町】
※6 児玉郡本庄市教育研究会【本庄市・上里町・美里町・神川町】

埼玉県連合教育研究会 組織・運営図

会員=30,771名の先生方



ホームページ
をご覧ください。
【※スマホ対応】

正副会長会 6名
・会長 1名
・副会長 5名

常任理事・理事会 21名
・会長 1名
・副会長 5名
・常任理事 10名<地域教育研究団体>
・理事 5名<教科等研究団体>

評議員会 (総会) 82名
・会長 1名
・副会長 5名 (兼評議員2名)
・監事 3名
・常任理事 10名 (兼評議員9名)
・理事 5名 (兼評議員5名)
・評議員 教科等団体長19名
地域団体長 55名

活動方針作成委員 8名
・会長 1名 ・副会長 2名
・常任理事 3名 ・理事 2名

会員【本年度 30,771名】
・公立小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校
・埼玉大学教育学部附属小・中学校、特別支援学校
・希望する私立中学校・特別支援学校等
・校長 ・副校長 ・教頭 ・校内教頭
・主幹教諭 ・教諭 ・養護教諭 ・講師

全県 小中学校1,211校

地域教育研究団体55 ※=複数市町村

1	埼玉大附属小	30	東松山市
2	埼玉大附属中	31	小川班*
3	さいたま市	32	菅谷班*
4	川口市	33	玉川班*
5	草加市	34	川島
6	蕨市	35	吉見
7	戸田市	36	秩父*
8	志木市	37	児玉郡本庄市*
9	朝霞市	38	熊谷市
10	新座市	39	深谷市
11	和光市	40	寄居町
12	埼玉大附属特別支援	41	行田市
13	鴻巣市	42	加須市
14	北本市	43	羽生市
15	上尾市	44	春日部市
16	桶川市	45	越谷市
17	伊奈町	46	久喜市
18	川越市	47	三郷市
19	所沢市	48	蓮田市
20	飯能市	49	幸手市
21	日高市	50	八潮市
22	狭山市	51	杉戸町
23	入間市	52	吉川市
24	富士見市	53	松伏町
25	ふじみ野市	54	白岡市
26	坂戸市	55	宮代町
27	鶴ヶ島市	—	入間地区連合
28	越生班*	—	埼玉葛連合
29	三芳町	—	

教科等研究団体19

No.	教科等研究団体19
1	国語
2	書写
3	社会科
4	算数数学
5	理科
6	音楽
7	美術
8	保健体育
9	英語
10	道徳
11	特別活動
12	進路指導・キャリア教育
13	学校視聴覚
14	教育心理・教育相談
15	特別支援
16	学校図書館
17	中学校技術・家庭科
18	小学校家庭科
19	生活科・総合的な学習の時間

事務局長等研究協議会

助成補助

配分金

旅費配当

事務局 4名
・事務局長
・幹事3名
・会報発行
・研究集録発行
・研究論文募集
審査・表彰
・講演会

会費負担金

講演会補助

論文応募
表彰・資料費

全国関東埼玉大会の開催

助成・補助→埼玉県・さいたま市・教育公務員弘済会から

全国関東埼玉大会への参加

教科等研究団体の全国・関東地区教育研究大会の開催予定 (令和6年4月1日現在)

小・中学校別	全国大会 (埼玉大会)		関東地区大会 (埼玉大会)	
	小学校	中学校	小学校	中学校
令和6年度	⑨英語	⑨英語	⑨英語 ⑭生活・総合	⑨英語 ⑭生活・総合
令和7年度	—	—	⑤理科 ⑥音楽	⑥音楽
令和8年度	—	—	⑮特別支援	⑤理科 ⑮特別支援 ⑰中・技術家庭科
令和9年度	—	—	⑨英語	⑨英語
令和10年度	—	③社会科	⑬学校視聴覚	⑬学校視聴覚
令和11年度	—	—	⑩道徳 ⑮特別支援	④算数数学 ⑩道徳 ⑮特別支援

埼玉県連合教育研究会の各事業は、会員【30,771名】の皆様の会費・負担金及び各種補助金等により運営されています。

会費・負担金等の流れ

会員の皆様

会費の納入

- ・埼玉県教育委員会
- ・さいたま市教育委員会
- ・教育公務員弘済会埼玉支部

助成補助

学級数割負担金

個人会費500円

納入

納入

市町村（地域）教育研究団体会費・負担金

埼玉県連合教育研究会事務費・公費補助（全予算）

教科等団体へ

- 配分金（活動費）
- 旅費の特別配当

教科等団体へ

令和6年度埼玉大会 関東大会 追加配分

「研究集録付研究論文集」配付【3月】

全小・中学校等

地域団体へ

講演会等補助

地域教育研究団体（市町班教研）

全会員から

研究論文・募集・表彰

全会員へ

「会報」配付【10月】

No.	教科等研究団体19
1	国語
2	書写
3	社会科
4	算数数学
5	理科
6	音楽
7	美術
8	保健体育
⑨	英語 11/15(金)・16(土)
10	道徳
11	特別活動
12	進路指導・キャリア教育
13	学校視聴覚
14	教育心理・教育相談
15	特別支援
16	学校図書館
17	中学校技術・家庭科
18	小学校家庭科
⑲	生活科・総合 10/25(金)

※令和6年度の埼玉大会開催団体は、左の2団体です。

- 全国大会【⑨英語】
- 関東大会【⑲生活科・総合的な学習の時間】

研究大会・協議会・研修会等に参加しましょう。

《会員の皆様の所属》【地域教育研究団体・教科等研究団体に所属されています。】

本研究会は、60年目を迎えた会員数30,783名を有する埼玉県最大の教員の教育研究団体です。

会員の皆様からの会費は、本研究会の設置の目的である埼玉教育の充実に向け、主に各教科等研究団体の研究のための配分金等に約6割、地域教育研究団体の開催する講演会補助金に約1割、研究論文の研究資料費等を含む本部事務局費等に約3割が充てられています。本年度も、会員の皆様からの会費を大切に、また、費用対効果を第一に考えながら各種事業の運営に努めてまいります。

会員の皆様には、本年度も、自ら進んで研究大会や研究協議会・講演会等に参加したり、研究論文に応募したりしながら、埼玉教育の充実に向け研究と修養に努めていただければと思います。

No.	埼玉大学教育学部
1	附属小学校 10/15(火)・16(水) 研究協議会
2	附属中学校 5/22(水)・23(木) 研究協議会

令和6年度

教科等研究団体及び埼玉大学 教育学部附属小・中学校の 研究主題・研究内容 《21団体》

1. 国語教育

埼玉県国語教育研究会

1 研究主題

「生活に生きて働く国語の能力の育成を

めざす授業の創造」

2 研究内容

学習指導要領の趣旨を生かし、基礎・基本の定着を図るとともに、興味・関心を生かした多様な言語活動を工夫し、児童生徒の学習意欲を高めるための実践的研究を行う。

また、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育むとともに、言語感覚を豊かにするための実践的研究を行う。

研究主題を具現化するために、言語環境をはじめ教材や教具、学習形態や学習方法、言語活動が豊かに整えられ、一人一人のよさを認め、伸ばしていこうとする国語教室こそ、児童生徒の自ら学ぶ意欲を高めることができるものと考え、これらの実践的研究と様々な事業を行う。

2. 書写教育

埼玉県書写教育研究会

1 研究主題

「書字文化を育む書写教育」

2 研究内容

授業力向上を目指す実践的研究と日常に資する技能向上研修を行う。

- (1) 研究協議会講演会（4月 書写教育研修）
- (2) 実技研修会（8月 教職員の指導技術向上）
- (3) 授業研究会（11月 授業力向上）
- (4) 硬筆展・書きぞめ展の開催（6月・1月）
※ 両展とも規模を一部縮小して開催
- (5) 『研究集録』の発行（3月 研究成果の紙上発表）

3. 社会科教育

埼玉県社会科教育研究会

1 研究主題

(小)「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

(中)「追究する力を育てる社会科学習」

2 研究内容

- (1) 小・中学校ブロック別授業研究会
- (2) 中学校基礎学力調査 問作・分析委員会
過年度までの研究を継続して深めていくために、上記の行事を実施し、研究とその成果を広めていく。
また、昨年度開催した第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会久喜大会の成果と課題を踏まえ、令和10年度に開催予定の全国中学校社会科教育研究大会に向けての研究を小・中学校で協働して進めている。

4. 算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

1 研究主題

「学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして」

2 研究内容

学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、数学的活動を重視した学習指導を展開する。

そのため、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方・考え方のよさに気付かせ、算数・数学を活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

本年度は、昨年度に引き続き、オンライン対応のノウハウを活用し、各種授業研究会や研究発表大会を対面やハイブリッド形式でも実施する。

5. 理科教育

埼玉県理科教育研究会

1 研究主題

「自然を主体的・科学的に探究する資質・能力の育成」

2 研究内容

児童生徒が理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、自然の事物・現象を主体的・科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する学習指導の研究及び実践を行っている。

また、育てたい子ども像を設定したり、日々の実践から課題を見いだしたりすることを授業改善の出発点としている。

- (1) 「探求の過程」や「問題解決の過程」を重視した学びの充実
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善
- (3) ICTの効果的な活用

6. 音楽教育

埼玉県音楽教育連盟

1 研究主題

「アナログ×デジタルで進化（深化）する音楽
の授業における個別最適&協働的な学び」

2 研究内容

埼玉県内の学校では、児童生徒がICTを文房具として活用できる環境が整いつつある。音楽担当教員には、個別最適な学びと協働的な学びの充実のための鍵となるICTの活用について指導力を高め、音楽教育の質の向上につなげることが求められていると考えている。

そこで、本連盟では、

- (1) 児童生徒が主語となる音楽科の学びの実現
 - (2) 音楽的な見方・考え方を生かした授業改善
 - (3) 音楽科における Well-being を目指した柔軟なカリキュラム・マネジメント
- の3点を研究の視点として主題に迫る研究を行っている。

7. 図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

1 研究主題

「きらめく感性 つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり 「深い」学びの探求～」

2 研究内容

- (1) 受け止めよう 子どもの心
- (2) 育てよう 確かな力
- (3) 深めよう 生き生き授業

3 今後に向けて

本年度から、埼玉県造形教育研究大会は、「創造体験研修会（Navi 1）」と「授業実践研究会（Navi 2）」に内容を分け、2年間で開催することとした。

現在、次年度の研究大会（Navi 2）に向けて研究部を中心に協議を進めている。

8. 保健体育教育

埼玉県保健体育研究会

1 研究主題

(小)「運動の特性や魅力に応じた楽しさや
喜びを味わうとともに、資質・能力を
バランスよく身に付ける授業の工夫」
「健康・安全に関する内容を実践的に
理解する保健教育の工夫」

(中)「3つの資質・能力をバランスよく育成する
保健体育指導の実践」

2 研究内容

- (小)「陸上運動系」「ボール運動系」「保健」
(中)「器械運動の特性に応じた効果的な学習指導の工夫」
「球技の特性に応じた効果的な学習指導の工夫」

「生涯を通じて心身の健康を保持増進するための
資質・能力を育てる保健教育の工夫」

9. 英語科教育

埼玉県英語教育研究会

1 研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く人材の育成を
目指した英語教育
～コミュニケーションを大切にする児童生徒の育成～」

2 研究内容

各地区の代表の教員による、英語の授業実践や学習指導等の研究発表や、それらに対する活発な意見交換を通して、教員の資質・能力の育成及び主題についての研究を深めたい。

また、日頃の学習指導の成果発表の場として、中学生を対象とした英語弁論大会を開催し、指導教員及び生徒の意識の高揚を図りたい。

※ 第74回全国英語教育研究大会開催
11月15日(金)・16日(土)

10. 道徳教育

埼玉県道徳教育研究会

1 研究主題

「人としての生き方について考えを深め、
よりよく生きる児童生徒を育てる道徳教育の創造
～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～」

2 研究内容

- (1) 8月「夏季研修会」：理論研修や教材吟味等を行い、授業実践、指導方法の改善について協議を行う。
また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田 竜次 氏の講演会を実施し、理論と実践の研究を深める。

(参集型での演習、講演等の全日研修)

- (2) 11月「埼玉県道徳教育研究大会・熊谷大会」
：熊谷市立江南北小学校を会場に公開授業及び埼玉県道徳教育研究推進モデル校事業の研究発表を行う。
併せて、『「考え、議論する道徳」の充実に向けて』をテーマに、パネルディスカッションを行い、パネラー、参会者で意見交換を通し、道徳の授業実践に係る研鑽を深める。

11. 特別活動

埼玉県特別活動研究会

1 研究主題

「持続可能な社会の創り手を育成する特別活動」

2 研究内容

昨年度まで取り組んだ「多様な他者と協働する力を

育む特別活動」を主題とした研究で明らかになった成果と課題を踏まえ、社会を形成していこうとする力を養うことができるようにするためにはどのようにしたらよいか、本研究主題の下、研究を進めることとした。

研究の内容は、①「持続可能な社会の創り手を育成するための指導計画」、②「持続可能な社会の創り手を育成するための指導と評価の方法」の2点を中心とし、研究を進めていく。

また、①専門委員研究協議会（年3回）、②定期総会・講演会、③夏季研究協議会、④研究集録発刊、⑤会報「特活」発刊（年3回）、などを通して、県内の特別活動の充実、発展を目指す。

12. 進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

1 研究主題

「未来を見据え、主体的に生き抜く力を育てる

キャリア教育の推進 ～小中一貫を円滑に

進めるための協働的な取組を通して～」

2 研究内容

25地区進路指導・キャリア教育研究協議会について、継続的な研究を推進する。

その内容については、各校の工夫により、「職場体験学習」や「フィールドワーク」、「地方での校外学習の実践」等、ICT機器の活用等、従前の体験学習の実効性を活用したものが多くなっている。

また、「キャリア・パスポート」を意識したものや「道徳での実践」も多く実践され、研究の深まりと新たな進学システムへの研究推進が期待できる。

13. 学校視聴覚教育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会

《埼玉県学校視聴覚教育連盟》

1 研究主題

「主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を目指して ～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～」

2 研究内容

教育メディアやICTを活用した学習を研究・展開し、児童生徒に自ら学ぶ力と主体的に問題を解決する力・情報活用能力を育成することを目的に活動している。

本年度は、研究主題について、より効果的・効率的に他団体と連携や情報共有を行いながら研究を進めていく。

《埼玉県放送教育研究会》

1 研究主題

「共に学び、考え、次の時代を創る埼玉の放送教育～ひろがる つながる 深まる みんなと幸せになる～」

2 研究内容

日々の授業や研究活動を充実させ、放送の活用を推

進し、授業研究会・全国大会、関東ブロック大会・放送コンテスト等を通して授業研究等の成果を広く発信していく。

《埼玉県教育機器研究会》

※ 本年度休会

14. 教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

1 研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

2 研究内容

(1) 通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。

(2) 社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。

(3) 定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

15. 特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

1 研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援の充実を求めて」

2 研究内容

(1) 幼児児童生徒一人一人の障害の状態及び発達の段階や特性等に応じた効果的な指導の在り方を追究する。

(2) 発達障害のある幼児児童生徒をはじめ、学習や生活に特別な支援を必要とする子に対する指導の在り方を追究する。

(3) 新しい時代の特別支援教育の諸課題に応じた教育について研究し、本県特別支援教育の実践を進展させるとともに、オンラインでの会議・研究協議会等も取り入れ現代の働き方の中での合理的な研究会の在り方を創造する。

16. 学校図書館教育

埼玉県学校図書館協議会

1 研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造～主体的・対話的で深い学びを支える

学校図書館教育～」

2 研究内容

(1) 研究

学習指導要領の趣旨に基づき、学校図書館に関する管理運営・利用指導・読書指導・地域連携を中心に、学校・家庭・地域（公立図書館等・図書ボラン

ティア等)との連携を図り、学校の教育課程の展開に寄与する学校図書館を目指し研究を推進する。

(2) 事業

- ・集会 理事会、学校図書館研究大会
- ・協議 第1～2回研究協議会
- ・研究 学校図書館授業研究会
- ・表彰 読感文・読感画コンクール審査、表彰
- ・刊行 埼玉SLA会報94号 感想文・感想画集『真珠』
- ・広報 夏休み・冬休みの推薦図書案内

(3) 調査

埼玉県学校図書館協議会沿革史CD-ROM化
(組織・総会資料・真珠、研究紀要等)

17. 技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

1 研究主題

「未来社会を切り拓くための資質・能力を
育成する学習指導の研究」
～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

2 研究内容

これまでの実践をもとに、学習指導要領の示す資質育成に効果的な指導と評価の研究を継続している。

令和8年実施予定の関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会埼玉大会の実施に向け、専門委員会を核として支部ごとに分担した発表内容ごとに計画、実践、評価等の検討と検証を行い、2月の教員研究発表会で広く県下全域で情報共有し、国立教育政策研究所の指導をいただきつつ、研究の方向や内容の確認と改善を図る。

18. 小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

1 研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
～生活の営みに係る見方・考え方を
効果的にはたらかせる指導法の工夫～」

2 研究内容

- (1) 秩父市立影森小学校において、第55回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会を開催する。
- (2) 夏季研修会において、埼玉県立総合教育センター指導主事 山崎 元美 氏の講演会を実施する。
- (3) 埼玉県児童生徒発明創意くふう展を開催する。
- (4) 研究紀要の編集と発行をする。

19. 生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

1 研究主題

「児童の気付きや概念的理解を質的に高める指導の工夫」

2 研究内容

生活科における気付きの質の高まり、総合的な学習の時間における概念形成について、考え方を整理する。

具体的な実践例を基に、気付きの質の高まりや概念的理解の高まりについて考察するとともに、児童生徒が変容したきっかけについて分析をし、教師の適切な支援についても整理したい。

生活科、総合的な学習の時間の授業場面を類型化して、それぞれの場面で求められる気付きの質と概念的理解の高まりや、その評価についても整理し、児童の気付きや生徒の概念的理解を質的に高めるための指導方法について研究を進める。

※ 第26回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会開催 10月25日(金)

20. 埼玉大学教育学部附属小学校

埼玉大学教育学部附属小学校

1 研究主題

「漸進する学び」(2年次)

2 研究内容

- (1) 第92回小学校教育研究協議会
令和6年10月15日(火)・16日(水)に開催する。
研究の2年次として、各教科、健康教育の授業公開、提案を行う。
- (2) 校内授業研究会
個人の研究主題を基に、学校及び教科の研究主題を踏まえ、授業を通して理論の検証を試み、全員で研究協議(質疑・グループ協議等)を行う。

21. 埼玉大学教育学部附属中学校

埼玉大学教育学部附属中学校

1 研究主題

「挑戦心を育む『令和の日本型学校教育』の実現」

2 研究内容

副題を、～自己評価が育む 未来への挑戦心～とし、昨年度までの「挑戦する学びの場面の設計」と「教師や仲間との協働的な学びの充実」に継続的に取り組むとともに、本年度は、「AARサイクルを重視する探究活動における自己評価活動の充実」を研究の手立てとして、実践研究を行った。

各授業等において、挑戦心が表れている具体的な生徒の姿を設定し、その姿が表出するように工夫を行った。

- (1) 挑戦心を引き出す課題設定の工夫についての継続研究
- (2) 協働的に学ぶ場面を意図的に組み入れる工夫
- (3) 挑戦心を醸成する「見通し」と「振り返り」の充実

令和6年度

地域教育研究団体の 取組 《16団体／55団体》

1. さいたま市教育研究会

会長 石川 聡

本研究会は、小学校105校、中学校60校、特別支援学校2校、中等教育学校1校の168校 5,653名の会員が21の専門部に所属している。

1 本研究会の目的

市内各学校の教育指導の充実、教職員の資質向上に寄与し、本市の教育振興を期する。

2 主な事業

- (1) 運営委員研究協議会 年4回
- (2) 評議員研修会及び研究協議会 5月14日(火)
講話 「世界と向き合い 未来の創り手として輝き続ける人」の育成をめざして
講師 さいたま市教育委員会教育課程指導課長
- (3) 専門部長研究協議会 年3回
- (4) 全体研修会（教育講演会） 8月23日(金)
演題 『ヤングケアラーに光を』
～十八歳からの十年介護～
講師 フリーアナウンサー 町 亜 聖 氏
- (5) 研修大会 11月21日(木)
各専門部が市内学校等を会場に授業研究会や講演会等を実施し、市内一斉に研修を行っている。

2. 草加市教育研究会

会長 春日 和 久

本研究会は、小学校21校、中学校11校に在籍する教職員922名の会員によって構成されている。

1 本研究会の目的

本研究会は教職員相互の職務の向上と親睦を図り草加市教育の振興を期することを目的とする。

2 主な事業

- 重点目標 「幼保小中の一貫した教育を通して、指導力の向上を図る」
- (生徒指導) いじめ撲滅・不登校・暴力行為への積極的な対応
- (学習指導) 学力の向上を図る指導のあり方
- (1) 本部事業
 - ① 総会・研究発表会 年1回

- ② 評議員会 年2回
- ③ 運営委員会 年2回
- ④ 合同主任会 年1回
- ⑤ 部長会 年2回
- ⑥ 教育講演会 年1回

(2) 研究部(30研究部) ※ 随時開催

3 本年度の課題

近年、各研究部の活動を充実させることと、教職員の働き方改革を両立させることが難しくなってきている。本年度は、①授業研究会等の活動内容の精選、②事務手続きの簡素化に取り組み、今後とも継続して草加市教育の振興に資することができるよう、活動内容を見直すことが課題である。

3. 新座市教育研究会

会長 浜田 祐 加

本研究会は、新座市内小学校17校、中学校6校に在籍する712名の教職員で組織され、23の教科等の主任研修会で構成されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、教育研究の振興を図り、会員の資質・指導力の向上を目指し、授業研究等を中心に取り組み、教育の充実に貢献することを目的とする。

2 主な事業

- (1) 総会 5月24日(金)
- (2) 各教科等主任研修会
各研修会は、原則年度内2回の開催として行う。
主に、1回目をオンラインで開催し、年間計画と方針の確認を行い、2回目を参集型で開催し、授業研究会等を行う。
- (3) 教育講演会(夏季教職員全体研修会)
期日 8月23日(金)
会場 新座市民会館大ホール
演題 「『内発を誘発するための外発』としての公教育の実現」
講師 文化庁 次長 合田 哲雄 氏

4. 伊奈町教育研究会

会長 今田 利 信

本研究会は、伊奈町立小学校4校及び中学校3校、県立伊奈学園中学校、私立国際学院中学校の計9校の教職員232名、20の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、会員の主体的研究によって、教育全般の振興を図るとともに、会員相互の理解を深め、資質の向上をめざし、伊奈町生涯学習社会の構築、教育・文化の向上発展に貢献することを目的とする。

2 主な事業

- (1) 全体会 4月19日(金) 伊奈町立南小学校
- (2) 評議員会 5月23日(木) 伊奈町立南小学校
- (3) 各研究部の主な活動
 - ① 授業研究会
 - ② 各種研修会
 - ③ 町硬筆展覧会・書きぞめ展覧会
 - ④ 伊奈町科学教育振興展覧会
 - ⑤ 伊奈町小・中学校音楽会
 - ⑥ 伊奈町立小学校特別支援学級交流会
 - ⑦ 桶川・伊奈中学校英語弁論暗唱大会等を運営
- (4) 「研究集録」の作成・発行
各研究部の活動の概要、成果や課題をまとめる。

5. 飯能市教育研究会

会長 向 澤 雅 啓

1 本研究会の目的

本研究会は、小学校12校、中学校7校の正会員410名、賛助会員で構成され、26研究部会で組織されている。教職員が主体となり、職能の向上と教育の振興を図ることを目的としている。

2 主な事業

- (1) 本部事業
 - ① 理事会 年3回
 - ② 評議員会 年2回
 - ③ 部長会 年2回
 - ④ 合同主任会 年1回
 - ⑤ 研究発表会 4校
 - ⑥ 研究紀要 年1回

(2) 各研究部(26研究部会)

主任研修会は、各々が授業研究会や講習会を企画し実施する。書写の硬筆展等は、展覧会ではなく審査会を実施する。

6. 日高市教育研究会

会長 河 村 康 郎

本研究会は、日高市内の小学校4校、中学校4校、義務教育学校2校に在籍する教職員278名で組織され、27の教科領域等の研究部で構成されている。

(令和7年度は、小学校3校、中学校3校、義務教育学校3校となる。)

研究テーマは、「小中一貫教育を活かした日高っ子の育成」である。

1 本研究会の目的

本研究会は、日高市の公立小中学校、義務教育学校職員が主体となって、職能の向上と教育の振興発展を図る。

2 主な事業

- (1) 一斉主任研修会 4月11日(木)
終了後、部長会計会議を実施
- (2) 理事研修会 (年5回予定)
- (3) 評議員会 (年2回予定)
- (4) 総会 4月30日(火)
- (5) その他
 - ・会報の発行(年2回)
 - ・各部署で小中一貫教育の視点をもった研究・研修
 - ・研究発表校 (令和6年度は3校)
地区研究 (高麗川小学校)(高麗川中学校)
自由研究 (高萩北小学校)

7. 越生班教育研究会

会長 本 橋 友 見 子

本研究会は、越生町と毛呂山町にある小学校6校、中学校3校に在籍する181名の教職員を会員として、29の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、越生班学校教育の振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 教育上の調査・研究
- (2) 学習指導の研究及び研究協議会の開催
- (3) 講演会・講習会の開催
- (4) 学習奨励のための諸事業
- (5) 各種教育団体との連絡調整
 - ① 会議
 - ・一斉主任会 4月9日(火)
 - ・理事部長研究協議会 (年2回)
4月9日(火)・3月上旬
 - ・総会・理事部長会 5月10日(金)
 - ② 各研究部の活動
 - ・主任研修会
 - ・授業研究会
 - ・各展覧会、音楽会、英語弁論大会等

8. 玉川班教育研究会

会長 中 島 慎 二

本研究会は、ときがわ町と鳩山町にある小学校6校、中学校3校に在籍する教職員141名を会員として、31の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、研究の振興と会員の資質の向上及び相互の親睦を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 一斉主任会 4月11日(木)
- (2) 総会 5月15日(水)

- (3) 理事研修会 年間3回実施
- (4) 全員研究協議会・教育講演会 8月22日(木)
○ 講師：オシエルズ
- (5) 班音楽祭 10月23日(水)
○ 班内全小・中学校(9校)による音楽祭
- (6) 班児童生徒理科研究発表会 1月
- (7) 研究集録の作成
- (8) 各研究部の活動
○ 授業研究会(各教科)
○ 書写部(書きぞめ展)
○ 図工・美術部(美術展)等

各研究部主体による研修会・授業研究会を実施

- (4) 教育講演会 8月2日(金)

講師 相澤病院 ブランドアンバサダー

小平 奈緒 氏

演題 「知るを愉しむ」

9. 川島教育研究会

会長 金子 美里

本研究会は、川島町内の小学校4校、中学校2校の会員数106名、29の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、教育の振興と会員の資質の向上に努め、併せて相互の親睦を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 教科等主任研修会 4月12日(金)
- (2) 第63回総会 5月20日(月)
常任理事会において縮小して実施
- (3) 各研究部の活動
① 授業研究会
② 主任研修会
③ 児童生徒研究発表会
④ 特別支援学級交流学習会・合同遠足
⑤ その他、本研究会の目的達成に必要な活動
- (4) 研究集録の作成
各研究部の一年間の活動概要、成果及び課題をまとめ、発刊する。

10. 秩父教育研究会

会長 浅沼 健一

本研究会は、秩父地区の小学校22校、中学校12校の会員数611名、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、本会教職員の資質の向上を図り、地域教育の振興に寄与することを目的とする。

2 主な事業

- (1) 理事研修会
第1回 令和6年7月5日(金)
第2回 令和7年3月6日(木)
- (2) 総会 5月1日(水)
代議員による組織づくり・事業計画作成
- (3) 各研究部の活動
5月～令和7年2月

11. 児玉郡本庄市教育研究会

会長 諏訪 慎一

本研究会は、本庄市、上里町、美里町、神川町の1市3町(児玉郡本庄市)の小学校24校、中学校8校に在籍する教職員725名の教職員で組織され、30の教科・領域等の研究会で構成されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、児玉郡本庄市内における各研究会の活動を通して、児玉郡本庄市の小・中学校の教育振興を図ることを目的としている。

2 主な事業

- (1) 組織づくり 4月11日(木)・12日(金)
- (2) 新旧本部役員会 4月16日(火)
- (3) 理事研修会及び総会 5月17日(金)
- (4) 第1回部長会議 7月5日(金)
- (5) 教育講演会 8月7日(水)
- (6) 本部役員研修会 2月上旬
- (7) 「研究集録」発行 3月上旬
- (8) その他 授業研究会、美術展、書きぞめ展、科学展等を運営

12. 熊谷市教育研究会

会長 小島 直樹

本研究会は、熊谷市内28校、中学校16校に在籍する教職員1,005名で組織され、34の教科・領域等の研究会で構成されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、「熊谷教育」の発展のため、「知・徳・体のバランスの取れた学力日本一」を目指し、その土台となる「熊谷の子どもたちはこれができます!『4つの実践』と『3減運動』」を基盤として、教育研究活動の充実を図ることを目的としている。

2 主な事業

- (1) 主任研修会・理事会 4月24日(水)
- (2) 総会(代議員制) 5月31日(金)
- (3) 小学校陸上フェスティバル 6月4日(火)
- (4) 教育文化講演会 7月29日(月)
○ 演題 「みんなの学校が教えてくれたこと」
○ 講師 大阪市立大空小学校
初代校長 木村 泰子 氏
- (5) 中学校音楽会 11月6日(水)
- (6) 小学校音楽会 11月21日(木)・22日(金)

- (7) 会報（年2回）の発行 11月・2月
 (8) 研究要録の発行 3月

13. 加須市教育研究会

会長 大谷 浩

本研究会は、小学校22校、中学校8校、幼稚園8園に在籍する教職員621名、30の教育専門部で組織している。

1 本研究会の目的

加須市立幼稚園・小・中学校の学校教育の振興を図るとともに、相互の連携を密にし、職能の向上を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 第1回理事研究協議会 ※ 総会に代える
- (2) 授業研究会、実践研修会、研究協議会等による研究推進
- (3) 硬筆展、発明創意くふう展、科学教育振興展、音楽会、美術展、書きぞめ展等の各種展覧会
- (4) 研究委嘱校（令和6年度発表）
 - ・大桑小学校（学習指導の改善・全教科）
 - ・大越小学校（学習指導の改善・算数科）
 - ・騎西小学校（学習指導の改善・国語科）
 - ・元和小学校（学習指導の改善・国語科）
 - ・加須北中学校（人権教育・全教科）

14. 春日部市教育研究会

会長 柿澤 英和

本研究会は、小学校22校、中学校11校、義務教育学校1校の計34校、会員998名で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、春日部市立小・中・義務教育学校教職員相互の連絡・連携を密にして、会員の資質向上と人間性豊かな児童生徒の育成を目指すとともに、市の教育振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 定期総会（オンライン開催）
 - ※ 総会議案は、事前にWeb上で決裁を行った。
 - ※ 例年実施していたPTA連合会との合同開催による教育講演会は、諸事情を鑑み実施しないこととした。
- (2) 各研究部の活動（29部会）
 - ① 主任研修会
 - ② 研究協議会・授業研究会・実技研修会等
- (3) 主な主催事業
 - ① 書きぞめ展（Web開催）・発明創意くふう展
 - ② 特別支援学級ふれあいアート展（Web開催）
 - ③ 小学校陸上競技大会・音楽会等

3 その他

研究会報は、紙面の配付に代えネット掲載とする。

15. 八潮市教育研究会

会長 須賀 裕之

本研究会は、八潮市内の小学校10校、中学校5校の会員数396名、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、小中一貫教育を基盤として、教職員の資質の向上と人間性豊かな児童生徒の育成に努め、市小・中学校教育の振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 教科等主任研究協議会 4月
- (2) 役員研究協議会（オンライン等） 4月・5月・3月
- (3) 総会・研究協議会（書面表決） 5月
- (4) 行事等
 - ・硬筆展・中学生英語弁論大会・市内科学展
 - ・読書感想文審査会・発明創意くふう展
 - ・書きぞめ展
 - ・なかよし学習発表会（特別支援学級）
 - ・なかよし作品展（特別支援学級）
- (5) 各教科等事業
 - ・研究協議会・授業研究会・実技研修会等
- (6) 会計監査 3月

16. 宮代町教育研究会

会長 高野 桂子

本研究会は、宮代町内小学校4校、中学校3校、会員数158名の教職員、31研究部会で組織されている。

1 本研究会の目的

宮代町教職員の資質及び学校教育の向上を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 定期総会及び研修会（4月）
 - 演題 「生徒指導と魅力ある学校づくり」
 - 講師 宮代町教育委員会 教育長 中村 敏明氏
- (2) 教職員全体研修会（8月）
- (3) 特別行事・研究発表会等
 - ・小学校陸上記録会 ・町内硬筆展覧会
 - ・町内科学教育振興審査会 ・発明創意くふう展
 - ・英語スピーチコンテスト ・町内音楽会
 - ・特別支援学級作品展 ・児童生徒美術展
 - ・町内書きぞめ展覧会等の開催
- (4) 授業研究会・研究協議会の実施
- (5) 研究集録「清流」の作成

事務局だより

令和6年度本部事業計画

令和6年

- 4月1日(月) 各教育研究団体の役員名簿提出依頼
- 5月8日(水) 令和5年度本部会計監査会
- 6月11日(火) 評議員会・第1回正副会長会・理事会
全体研究協議会
令和5年度教育研究論文入賞者表彰式
記念講演会
講師 前埼玉大学教育学部長
教授 堀田 香織 氏
- 6月21日(金) 会費・負担金の納入依頼及び評議員会
等資料の配付並びに『六十年のあゆみ』
『会報第77号』原稿執筆依頼送付
- 7月10日(水) 教科等研究団体事務局長等研究協議会
【オンライン開催】
- 7月17日(水) 第2回正副会長会
- 9月6日(金) 研究論文応募締め切り
- 10月4日(金) 『会報第77号』発行・会員等へ配付
- 12月11日(水) 編集委員会
- 12月13日(金) 『研究集録付研究論文集』原稿執筆依頼

令和7年

- 1月16日(木) 「活動方針と重点・努力点」検討依頼
～31日(金) (担当副会長・常任理事・理事)
- 2月18日(火) 第3回正副会長会
- 2月26日(水) 教育研究団体活動報告書提出
(日本教育公務員弘済会埼玉支部)
- 3月5日(水) 教科等研究団体会計監査会
～7日(金) (実績報告書・事業計画案検収)
- 3月14日(金) 『研究集録付研究論文集』発行・配付
- 3月18日(火) 教育研究団体活動報告書提出
(埼玉県教育委員会)

令和6年度全国・関東地区教育研究大会後援

- ◆ 全国教育研究発表大会後援 【1団体】
・埼玉県英語教育研究会
11月15日(金)・16日(土) 独協大学等
- ◆ 関東地区教育研究発表大会後援 【1団体】
・埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会
10月25日(金) 熊谷市立新堀小学校

令和7年度全国・関東地区教育研究大会後援予定

- ◆ 全国教育研究発表大会後援 【0団体】
・なし
- ◆ 関東地区教育研究発表大会後援 【2団体】
・埼玉県理科教育研究会 (小学校)
・埼玉県音楽教育連盟

『研究集録付研究論文集』原稿執筆研究団体

本研究会は、毎年、年度末の3月に、『研究集録付研究論文集』を発行し、県内全小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校、教育行政機関等へ配付しています。

原稿執筆については、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入賞者等に原稿執筆のご協力をお願いしています。教科等研究団体には毎年、地域教育研究団体には4年に1度の原稿執筆をお願いしています。

なお、旧教育事務所の秩父地区、児玉地区、大里地区、北埼玉地区には、市町村の合併により、変則的に原稿の執筆を依頼しています。令和6年度は、下の14地域教育研究団体に原稿執筆をお願いいたします。

会員の皆様には、所属の研究団体はもちろんですが、他の研究団体の研究及び活動内容等についても、是非、ご覧いただき、各研究団体の今後の事業の充実を図っていただければと思います。

【本会ホームページでもご覧いただけます。】

埼玉県連合教育研究会URL <https://sairinkyu.jp>

被表彰

令和6年度「身体障害者福祉のための第66回埼玉県児童生徒美術展覧会」において、埼玉県連合教育研究会会長賞を、次の児童生徒さんが受賞されました。

おめでとうございます。

- 鴻巣市立小谷小学校 第2学年
矢部 京佑 さん
作品名 『進め！ 2かいだておくら号』
- 秩父市立影森中学校 第1学年
小沼 なのは さん
作品名 『友達』

- ①川口市教育研究会
- ②志木市教育研究会
- ③桶川市教育研究会
- ④所沢市教育研究会
- ⑤富士見市教育研究会
- ⑥ふじみ野市教育研究会
- ⑦東松山市教育研究会
- ⑧秩父教育研究会
- ⑨児玉郡本庄市教育研究会
- ⑩寄居町教育研究会
- ⑪羽生市教育研究会
- ⑫吉川市教育研究会
- ⑬松伏町教育研究会
- ⑭白岡市教育研究会

※12月13日(金)に、原稿執筆依頼文書を発送予定です。執筆へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年度研究論文入賞者 研究論文の概要

● 研究主題

『グローバル・スタディ科の児童と共有するチェック式採点指標ルーブリックに関する研究
～誰にとっても信頼性の高い「話すこと」における「思考・判断・表現」の評価を目指して～【外国語科】
さいたま市立本太小学校 教諭 有江 聖

1 研究の概要

本研究では、誰にとっても信頼性の高い評価を目指し、ルーブリックの開発を2年間通じて行った。

小学校外国語科が設置されて以降、教員の評価に対する不安や悩みは常に上位にくることが様々な先行研究で言及されている。特に、「話すこと」における「思考・判断・表現（以下、思・判・表）」への不安が強い。

「話すこと」の評価に関して、近年パフォーマンス評価とルーブリックが注目されている。しかし先行研究等では、ルーブリックによるパフォーマンス評価は、一般に評価の妥当性は高いといわれているが逆に、評価者間信頼性（複数評価者による評価の一致）の問題があると指摘されている。それらの解決の手立てとして近年、西岡(2021)は、複数の評価者間で評価規準・基準を共通理解し、同じ採点規則に従うことによって、評価の一貫性が確保されているかどうかを検討する「比較可能性」の概念を提起している。

これらを踏まえ、筆者は令和3年度に「話すこと」の「思・判・表」における信頼性の高いルーブリックの開発を研究した。この研究においては信頼性＝評価者間信頼性（複数教員による採点一致度）と定義した。比較研究も兼ねて、A,B,Cの各段階を記述した3段階ルーブリックと、A評価のみを記述した採点指標ルーブリックを使用した。

第4学年児童（4学級、128名）の単元末プレゼンを担任、ALT、筆者の3者で評価し、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点と点数化し、IBM SPSS Statisticsの「信頼性分析」によりクロンバックのα係数による採点の一致度を算出した。α係数は1に近いほど評価者間信頼性の高さを示し、0.7以上で中程度、0.8以上で高い信頼性、0.9以上で理想的な信頼性と判断する。

研究の結果、採点指標ルーブリックに高い一致度が見られ、信頼性の高さを伺わせた。それを基に、チェック式を取り入れた採点指標ルーブリックを開発して使用した結果、評価者の組み合わせによるブレも少なく、安定して高い一致度(0.857～0.950)を算出した。

しかし、学習評価の意義は子どもの学習状況を見取ったり評価データや評価資料を集めたりするだけでなく、子どもたちが自身をモニターし、学習がより「主体的・対話的で深い学び」となるような改善につなげることにある。つまり、評価は教員だけでなく、児童にとっても還元性が高く、信頼性の高いものでなければならない。

これらを踏まえ令和4年度は、令和3年度に開発したチェック式採点指標ルーブリックが児童にとっても信頼性が高いものかを検証した。検証方法は令和3年度を踏

襲し、担任、専科による評価に児童の自己評価も加え、3者の一致度を算出した。実施単元は、第5学年「夏休みの思い出」である（筆者担任の1学級で実施）。児童にはパフォーマンス課題準備時にチェック式採点指標ルーブリックを渡し、プレゼン後に自身のパフォーマンスをそのルーブリックに沿って自己評価してもらった。

プレゼンのゴール									
		①感想に加え、②したことや③自分の気持ち④好きなこと⑤したいこと⑥追加の思い出や⑦説明（気持ち）などを交えて話している。							
No	name	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	評定
1									A
2									B
3									C

図1 使用したチェック式採点指標ルーブリック

2 研究の成果と課題

分析の結果、非常に高い一致度が確認された(図2)。評価者の組み合わせの違いによるα係数もブレが少なかった。

項目合計統計量					
	項目が削除された場合の尺度の平均値	項目が削除された場合の尺度の分散	修正済み項目合計相関	重相関の2乗	項目が削除された場合のCronbachのアルファ
HRT	5.23	.981	.933	.	1.000
JAT	5.26	.931	.983	.	.965
児童	5.26	.931	.983	.	.965

図2 筆者、専科、児童による採点のα係数

また、児童らにとったアンケートから、本ルーブリックへの満足度の高さが伺えた。さらに、ルーブリックを共有したことにより、児童がパフォーマンスを見つめ直して改善しようとする姿が見られた。これらから、誰にとっても信頼性の高い「話すこと」の「思考・判断・表現」の評価に向けて、ルーブリックの開発という視点から一定の効果が得られたのではないかと推察する。

課題として、基準を数で表すことで児童が数にこだわってしまい、内容構成に目を向けなくなる可能性、記述を一文で示すことで、記述文のとおり発表内容を考え、発話の定型化を招いてしまう恐れなどが挙げられる。そこで、児童にはB基準までを共有し、A基準の姿を想像させたり、チェック式だけでなく、期待される姿を箇条書きのルーブリックにしたりして共有する方法も検証していく必要がある。また、今後はフィードバックによる効果や、更なるデータを取り、量的分析も行って検証をしていく必要がある。

そして、重要なことは「何のための評価か」を考え、教員と児童どちらの改善にも繋げていくことである。

令和5年度研究論文入賞者 研究論文の概要

● 研究主題

『明日の社会を創造する力を育む小学校社会科授業

～地域教材の活用を通して～』【社会科】

伊奈町立南小学校 教諭 金子 恵美

1 研究の概要

(1) はじめに ～今、子どもたちに求められる力～

現代は、先行きが見えない不安定な世の中である。このような社会だからこそ、一人一人が受け身の存在ではなく、社会の形成者としての自覚のもとに、自ら主体的に判断し、他者と関わりながら課題解決できる人材の育成が重要視される。未来を担う子どもたちが、自らの手でよりよい社会を創ることができるよう、明るい展望をもたせることに、社会科教育の意義や責任がある。小学校の段階から「地域社会に対する誇りと愛情」「地域社会の一員としての自覚」などをしっかりと身に付けさせたい。特に、自分の住む市区町村の課題を知り、行政や住民がどのような課題意識をもって生きていくべきかを考え、地域の人に自分たちの考えを伝える等、社会とつながる授業や活動をイメージさせたい。

本研究では、持続可能な社会づくりのため、社会の形成として必要な力を「人間力（積極的に社会に参画し課題を見付ける能力）・社会力（課題を克服し社会をよりよく変えていこうとする能力）」と設定している。この力を高め、「社会の一員としての自覚」を身に付けさせることで、主体的に社会参画できる人間の育成を図る。

研究仮説 『地域とのつながりを意識させた魅力ある授業を展開すれば、主体的に学ぶ児童を育成し、社会を創造する力を高められるだろう。』

(2) 主体的に学ぶためのアイテム（物・人・街）

地域の「物」「人」「街」を収集・開発・活用する。

○「モノ」（物）を実感させる

教室に持ち込む実物の効果は大きい。

○「ヒト」（人）に共感させる

生き方を想像し、その苦労や悩みに共感させることで、社会を創ってきた先人や現代の大人たちに習う。

○「マチ」（街）を体感させる

地域での生活を感じる資料は無数にある。児童自身が収集してくればいっそう効果的である。

(3) 実践例【力を伸ばすための手立て】

①「3年・農家の仕事」→つながりを意識させる

自分が社会に参画している＝社会を形成する一員であることに気づき、社会のため何ができるか考えさせる。

②「3年・くらしを守る」→人間の本質に迫る

社会を守ってくれる人が身近にいることで、社会を

受け継ぎ、新しい社会を築くという意識がいっそう高まる。

③「4年・水はどこから」→当たり前を驚きに変える

当たり前が、当たり前ではないと知り、そこにある「人」の姿、その苦労や工夫に気付いた時、驚きが変わる。

④「4年・伊奈忠次」→地域に誇りを持たせる

住んでいる地域について理解することで、継承し発展させようとする意識を育てる。

⑤「4年・井澤弥惣兵衛」→教材に命を吹き込む

郷土の発展に尽くした人々の姿に感謝し、郷土を受け継ぐ意識を高める。名は残らなくとも、今まで多くの人々が築きあげてきたのが現在の社会であるということに気付かせることも大切である。

2 研究の成果と課題

(1) 研究のまとめ

小学校は、生活科で家庭や身の回りを学習し、学年が進むにつれ、市町村→埼玉県→日本→世界と、視野を広げていく。その根本は、自分の住む地域にある。地域社会に参画することが将来の社会の形成につながるという意識を高めることで、「積極的に社会に参画し課題を見付ける能力（人間力）」「課題を克服し社会をよりよく変えていこうとする能力（社会力）」の基礎を身に付けた児童を育成できている。

(2) 児童の変容

児童による单元ごとの学習問題に対するまとめでは、「社会をよりよくするために、自分はどうすればよいか」という視点で考えることができる児童が増えてきている。「すごい」「えらい」「自分にはできない」という他人事ではなく、「自分ならこうする」「これからこうしたい」「他の人に広めたい」という「社会を変える」ことにつながる意見が多数を占めるようになってきている。

(3) おわりに ～社会科好きな児童に～

この研究を通して、児童の主体性が伸びてきていることを感じる。生活を改善したい、地域に貢献したい、社会に協力したい、という前向きな考えや発言が見られる。子どもは素直である。正しいことを学べば、それを実践したくなる。「授業で学んだことを誰かに伝えたり広めたりする」そういう児童の姿は、まさしく社会参画の第一歩であると考えられる。「児童の人間力・社会力の育成」を目指し、さらなる次のステップを探っていきたい。

令和7年度 研究論文募集要領 (案)

埼玉県連合教育研究会

研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ奮ってご応募ください。

記

1 目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

2 募集内容

教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理・教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

3 応募資格等

応募者は、県内の公立小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校に勤務する教員（会員）であり、研究論文は、個人及びグループの研究（学校としての研究も含む）であることとします。

4 応募規程

原稿の書式は、A4判縦長・横書き、横24字×縦46行×2段組で、パソコン入力（Word・明朝体）により、4～6枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。

また、研究論文には「表紙」を付け、その上に「応募票」を添付してください。

「表紙」には、①題名 ②勤務校 ③職名 ④氏名（グループ等代表者名）を記入してください。

5 応募票

「応募票」は、ホームページの各種提出書類の「研究論文応募票」からダウンロードしてください。

「応募票」の電子データを希望される方は、以下に記載の電話・E-mailにてお申し出ください。

「応募票」は、「個人研究」・「グループ研究」・「学校研究」別に「表紙」に添付してください。

6 応募上の留意点

- (1) 応募は、1人・1グループ・1学校1編とします。
- (2) 研究論文は、誌上未発表のものに限ります。
- (3) 「応募票」の『確約事項』2点の順守をお願いします。
- (4) 応募原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

7 原稿等の提出

令和7年9月5日（金） 必着

「応募票」及び論文原稿等の提出は、以下に記載の事務局へ電子メールでの送付もお願いします。

8 審査結果

審査結果は、令和7年12月中旬に、各応募者宛に書面にて通知します。

9 表彰等

最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、令和7年度『研究集録付研究論文集』及び本会ホームページへの掲載を行い、入賞者には、本会評議員会（総会）後の入賞者表彰式にて表彰を行います。

なお、研究資料費として入選論文には7万円（最優秀賞は10万円）、佳作論文には5万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。

また、教職経験10年未満の方を対象に新人奨励賞（3万円）を設けています。

10 審査員

本部役員及び編集委員

11 提出・問い合わせ先

〒330-0804 さいたま市大宮区堀の内町1-99 さいたま市立大宮東中学校内

埼玉県連合教育研究会事務局

TEL 080-1157-5347 FAX 048-645-1922

E-mail saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp

ホームページURL <https://sairenkyou.jp/>



ホームページ
QRコード